令和２年度　ふるさと教育推進事業

特色あるふるさと教育事例

学校名	吉賀町立　柿木中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	ふるさと教育の視点
全	・総合的な学習の時間 ・学校行事 ・生徒会活動	・職場体験学習（職業講話） ・野外活動 ・「竹灯籠で棚田をＰＲしよう」	【地域に貢献しようとする意欲喚起】ふるさとへの愛着を高め、地域と自分の「今とこれから」を考える。

１　特色ある取組の概要

○新型コロナウイルスの影響で校外での体験活動を取りやめ、講話を中心とした体験学習を８回計画した。**【右表：講師一覧】**

○三密を避けた野外活動を実施して、ふるさとの豊かな自然を体感した。

○地域行事の中止でボランティアの場を失ったため、生徒会が中心となって自分たちにできる貢献活動（竹灯籠の設置）を考えた。

手づくり自治区柿木村（まちづくり担当者）
ＮＰＯエコビレッジかきのきむら（アルミ缶搬出）
柿木公民館（学社連携）
食生活改善推進協議会（料理教室、差し入れ）
吉賀町役場産業課（林業の現状と展望）
島根大学生物資源科学部（吉賀町出身、有機農業）
吉賀町役場産業課（鳥獣との共存）
京都大学（環境ＤＮＡ、高津川の生物多様性）

２　ふるさと教育のねらいを達成するための授業（活動）のポイント（工夫）

○吉賀町が取り組む「サクラマスプロジェクト**【下記参照】**」の趣旨に則り、有機農業・野生生物との共存など多様な視点の講話を取り入れ、ふるさとで暮らすアイデアや起業精神を養おうと考えた。

サクラマスプロジェクトとは、ふるさとでの豊かな体験や学びを元に、いつの日かふるさと吉賀町を支える人材（財）に育ってほしいという願いを込め、学校・家庭・地域が連携して子どもを育てる取組。

○地域の強みや課題を把握し、「我がこと」として提案内容を考える探求的学習とした。

○野外活動では、講話の内容と連動した環境教育（森林資源の活用）の視点で、ロケットストーブ**【右写真及び下記参照】**を用いた調理に取り組んだ。

ロケットストーブとは、木の端材を燃料とする持ち運び可能な加熱器具。本校では災害時も想定して14台を自作し、端材の薪と一緒に備えている。

○まとめる力・表現力の育成を目指し、文化祭では全校生徒22名を２グループに分けて提案発表と演劇に取り組み、全員が「我がこと」として発表と向き合った。

講話のようす(食改さん)

ロケットストーブで調理

文化祭は全員ステージに

棚田入口に竹灯籠を設置

３　児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）

○２学期末に実施した生徒自己評価「授業や体験学習を通して将来の自分の姿について考えた」の回答のうち、「とてもそう思う」が昨年度と比較して３年生：35%→60%、２年生：０%→25%に向上した。

○３年生は自己評価「毎日の清掃やボランティア活動に意欲的に取り組んだ」の「とてもそう思う」も、42%→60%に向上した。また、校内弁論や地域のシンポジウムで「いつかふるさとのために働きたい」と語る生徒もいた。

夜はLEDで光る竹灯籠